

指標1		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
交流事業の実施回数(年間、1園あたり)	目標	回	2	2	5	5	5
	実績	回	3.9	4.2			
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	1,070	1,150	1,136		
単位当たり経費		千円/単位	274	276	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率		%		100.8%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

指標2		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%					
	実績	%					
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	1,070	1,150	1,136		
単位当たり経費		千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率		%		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

定性評価	
過年度の実施内容	

地域の高齢者を保育園に招き、また地域の老人クラブや高齢者施設を訪問等するなかで、古くから伝わる季節行事や伝承遊び等を高齢者とともに体験し、心のふれあいを深め、児童の心身の健全な発達を図った。

H18年度事業実績
 実施園数 25園中、23園で実施
 実施回数 延べ89回(園で実施73回、高齢者施設等で実施16回)
 参加人数 子ども 5,444人 高齢者 2,035人 合計 7,479人

H19年度事業実績
 実施園数 全25園で実施
 実施回数 延べ104回(園で実施74回、高齢者施設等で実施30回)
 参加人数 子ども 5,752人 高齢者 2,201人 合計 7,953人

事前評価	必要性	(分析・理由)
	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い 祖父母との同居世帯が減少傾向にある中、高齢者との交流を通じて、多様性の理解や、いたわり、思いやりの心の醸成を図る必要がある。
事前評価	行政関与の妥当性	(分析・理由)
	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い 一日の多くを保育園で過ごす子どもたちには、積極的に園が関与して地域の人々と触れ合う機会を設けていくことが必要である。
事後評価	有効性	(分析・理由)
	A	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない 高齢者からは保育園児とのふれあいや交流により、生きがいを感じ癒される等の感想を得ている。また、子どもたちにも高齢者をいたわり敬う気持ちが生じており、高齢者、児童の双方にとり有意義な事業となっている。
事後評価	効率性	(分析・理由)
	B	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない 通常の保育活動の一環として事業実施しており、当該事業に係る経費も必要最小限の範囲で対応する等、創意工夫をする中で事業実施している。

今後の事業展開		(分析・理由)
規模	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止	
拡大		地域の老人クラブや高齢者施設等の理解や協力が得られており、事業継続していく必要がある。

具体的な改善内容・事業の方向性等	
<p>問題意識 ・一日の多くを保育園で過ごす子どもたちにとって、地域の高齢者との交流を深め、季節の行事や伝承遊び、地域の豊かな自然等をともに体験することは、児童の豊かな心の醸成にとって欠かせない重要な取り組みである。</p> <p>・保育指針(保育所における保育内容や運営等について定めた国告示)が改定され、平成21年度から施行されるが、保育の実施にあたっては、「子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮すること。その際、家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、人材、行事、施設等の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実が図られるよう配慮すること。」の項目が規定されており、一層の保育内容の充実が求められている。</p> <p>・地域との連携を図る観点から、今後は高齢者団体以外とも積極的に調整を図り、高齢者等を含めた幅広い世代との交流を展開していく。そのため新たな交流活動(児童とともに行う行事等)の内容を探っていくとともに、実施回数の拡大にも努めていく。</p> <p>想定結果 市の実施が適当だが改善を要するもの</p>	
〔備考〕事業に対する市民・市民活動団体・事業者・議会からの指摘	